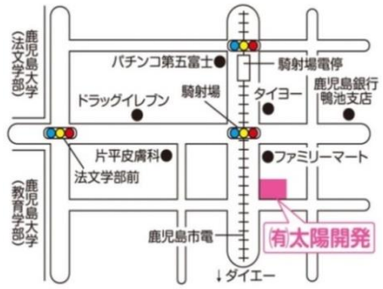
SUNSHINE

第 89号 2016年 3月発行
有限会社 太陽開発
鹿児島市鴨池2丁目1-12 TEL099-255-3623
E-Mail master91@taiyou1991. com

太陽開発 検索 クリック!!



注目のリノベーション物件 シャルマンⅡ オーナー 山下様

今回ご紹介させて頂くのは、小松原2丁目にある【シャルマンⅡ】です♪

★シャルマンⅡは鹿児島市小松原2丁目、ラサール学園前のリノベーション物件です。元々ラサール寮だった建物を閉鎖し、賃貸物件へとリノベーションした物件です。昭和63年に建築された建物で、3年前にビルを丸ごとリノベーションし、1LDK,6世帯の賃貸物件へと生まれ変わりました。1フロア2世帯のみの全世帯角部屋でゆったりとした贅沢な間取りに仕上がっています♪
オートロック、システムキッチン、エアコン、シャンプードレッサー、モニタ付インターホン、ウォシュレット等設備も新築のような設備です。個人的には2口コンロの付いたシステムキッチンが特にオススメ！
現在は1部屋募集中です！東側と南側の2面バルコニーのある301号室、最上階で、リビングからの眺めも良好で日々の生活を優雅に過ごせそう☺なお部屋です。 普通の賃貸では満足いかない！他とはひとあじ違ったこんな物件にご興味の方！是非ご見学下さい♪

鹿児島市荒田2-74-10
◆営業時間◆ 17:00 ～2:00
◆ 定休日 ◆ 毎週木曜日
◆ TEL ◆ 099-254-4906
大将 高倉 だいき 様

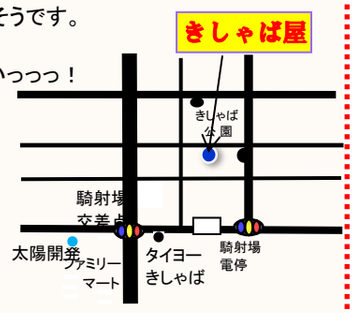
今回ご紹介するお店は、騎射場電停から徒歩2分のところにあります、「ぽんじり屋分家 きしゃば屋」さんです。
加熱する料理は、”ガスを使わず”、全て炭火焼にて調理するというこだわりで、『食品そのものの素材を生かしてお客様へ食べて頂きたい！』というオーナー様の想いで、ガスは契約すらしていないそうです。
「きしゃば屋」4大名物が、”牛タン炙り””地鶏ももの網焼き””鶏レバーのたたき””焼きおにぎり”です。なかでも、焼きおにぎりは、大葉と味付け海苔で、おにぎりを巻いてあり、大葉の風味と海苔の相性が絶妙です。
ちなみに、「焼き鳥の美味しさは、どこにも負けません！」と、大将の高倉様。私個人的には、『ぽんじり』が絶品でした★
店内はテーブル席が8席(2卓)、カウンター席が9席と、男性・女性問わず、お客様が一人で気軽に来店頂けるお店です。
各々お一人で来られたお客様同士、仲良くなり、カウンター席が活気溢れることも日常茶飯事だそうです。
新しい出会いや、恋の予感も期待できるかも♡♡♡
きしゃば屋さんでは、毎週火曜日は、【ドリンクオール100円イベント】開催中！缶ジュースより安いっっっ！
お近くに行かれた際は、ぜひ！一度立ち寄られてみて下さい！！

◇牛タン炙り

◇地鶏ももの網焼き

◇鶏レバーのたたき

◇焼きおにぎり

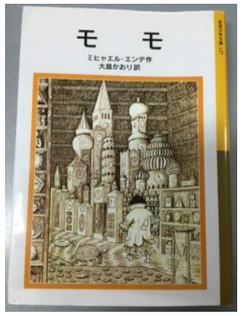


イタリア映画「道」の主人公ジェルソミーナによく似た女の子が我社で働いています。私はひそかに彼女をジェルソミーナと呼んでいます。私はこの映画がたいへん気に入っており、最近も観ました。今回はみなさんにぜひ観てもらいたいと思いご紹介します。

この映画は1956年、フェデリコフェリーニ監督の作品で、旅芸人のザンパノといっしょに旅をする助手（女房）のジェルソミーナという小柄で目の大きな愛くるしい女の子の物語です。
ジェルソミーナは貧しい家庭で育ち、家族の為にわずかのお金でザンパノに買い取られ、幌付荷台のオート三輪車で生活をしながらザンパノと二人、大道芸で身を立て方々を旅して回ります。

ザンパノは大男で強靭な肉体を使った芸を売り物にする芸人であり、常日頃粗暴でジェルソミーナに対しても、優しさや愛情を欠いた行動を取り続け最後は人殺しまでやるという我儘な男である。
一方のジェルソミーナは、貧しい田舎を離れ、新しい芸人の生活に馴染もうと努力しザンパノの為に尽くすが、うまくいかない事が多く自分は役に立たない人間であると思うようになる。
ある時サーカスで知り合った綱渡り芸人の男に「この世の中のものはすべて、必ず何かの役に立つ」と教えられ、彼がバイオリンで奏でる悲しい曲がジェルソミーナの心をとらえていく。
その後ジェルソミーナが口ずさむ悲しい曲のメロディーは映像に溶け込み、観る人の気持ちに入り込んでくる。そして、このメロディーが最後この映画を結末へと導いていく。
音楽は「ロミオとジュリエット」「太陽 がいっぱい」「ゴッドファーザー」等を手掛けたイタリアの作曲家ニーノ・ロータです。この映画の見処のひとつとして、ニーノ・ロータによる魅力的音楽（せつなく悲しい曲、ひょうきんでうきうきする曲、力強く陽気な曲）がそれぞれのシーンを効果的に演出しています。

ある事件後、体が弱って助手として役に立たなくなったジェルソミーナは、旅の途中ザンパノに置き去りにされる。
数年後、ある町で偶然ザンパノはジェルソミーナがよく口ずさんでいたあの悲しい曲のメロディーを耳にするのだが・・・・
ザンパノはジェルソミーナが遠くに行ったことにより初めて、自分にとって大切な人であり、いかに安らぎを与え、孤独をいやす存在であったかを痛切に感じ号泣する。
この映画は全編を通して、ジェルソミーナの顔（目）の表情で、彼女の微妙な心の変化を表現しているシーンが印象的だと思います。
みなさんも映画を観終わった後、ジェルソミーナの口ずさんでいたメロディーが心の中でリフレインし、ジェルソミーナのもの悲しい笑顔が浮かんでくると思います。 〔川越〕



今月の一冊 No.88 モ モ

ミヒャエル・エンデ南ﾄﾞｲﾂのｶﾞﾙﾐｯｼｭに生まれる。父は、画家のｴﾄｶﾞｰ・ｴﾝﾃﾞ。高等学校で演劇を学んだのち、ﾐｭﾝﾍﾝの劇場で舞台監督をつとめ、映画評論なども執筆する。1960年に『ｼﾞﾑ・ﾎﾞﾀﾝの機関車大旅行』を出版、翌年、ﾄﾞｲﾂ児童図書賞を受賞。1970年にｲﾀﾘｱへ移住し、『モモ』『はてしない物語』などの作品を発表。1985年にﾄﾞｲﾂにもどり、1995年8月、ｼｭﾄｳｯﾄｶﾞﾙﾄの病院で逝去。

町はずれの円形劇場あとにまよいこんだ不思議な少女モモ。町の人たちはモモに話を聞いてもらうと、幸福な気持ちになるのでした。そこへ「時間どろぼう」の男たちの魔の手が忍び寄ります・・・。「時間」とは何かを問う、エンデの名作。

寓話風になっているので読み易いのですが、時間という掴みどころがない題材を扱っているので、今一つ理解しきれない部分のありました。モモの外見のイメージが湧かないんですよね。でも、モモは素敵な資質を持った女の子であることは確かです。中でも最も見習いたい資質は、人の話を良く聞き・・と言うより、モモには相手が自分から話したくなる雰囲気があり、その話を聞いているんですよね。私もそんな人になりたい・・まずは、そ

トラブログがスタートしてはや一年！トラ執筆の猫のブログをメインに他に『猫時々～本』『～絶景』『～花』の話題も！一度覗いてみて下さい。太陽開発のHPから**こちら**をクリックしてね！